

【屋敷売券】
やしきうりけん

（端裏書） 「案文」

売渡申屋敷之事

在所四番保クホ次郎太郎分、同平二郎分也、東限助三郎墻、西限新殿地堺墻、南限大道、北限侍従殿地堺墻、又地役ハ家別ニ三日イナコキ、立木一荷之時米五合、入柴一荷之時米一升、自地主出之、此外無諸公事、

右、件屋敷者、買得相伝也、雖然依有要用、現錢参貫文仁限永代所奉売元
鱗坊実正明白也、本文書ハ依為須袋
分闕所、自始不相副、但為大館駿河殿売
券手繼并以新券文令沽却上者、不可
有他之違乱、万一押妨之輩出来候ハ、堅
可被処盗人之罪過者（科）也、仍為後証、新
券文如件、

（二四九〇）

延徳二年七月十九日

須巖（花押）

大館殿取継 金持兵庫方